

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	農地利用集積円滑化事業	会計	一般会計	事業No.	393	施策順No.	11-018
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-1-3-30-2		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	農業課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	22	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	効率的かつ安定的な農業経営を営む者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		認定農業者(件数)	239	244	267	258	265		
意図		農地の貸借等による利用集積							
対象をどう変えるか	対象を	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		対象農地面積(ha)				4	0	4	D
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	農地利用集積円滑化団体が発足後、間もないこともあり、実績がなかった。今後、実績が上がるよう、協力して事業を推進していく。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>農業生産の基盤となる農地が最大限利用されるよう、農地利用集積円滑化団体(JA)等と連携して、農地の利用集積の円滑化を図り、効率的かつ安定的な農業経営が行われるよう支援を行う。</p> <p>○農地利用集積事業(国庫定額) 円滑化団体の実施する農地利用集積に係る事業費(ア、利用集積交付金、イ、推進員設置、ウ、農地引受支援費、エ、小規模基盤整備費)について、市を経由して補助金を交付する。また、市町村は農地所有者等への普及啓発及び関係機関の連絡調整等により事業の推進を図る。(オ、市町村活動支援事業)</p> <p>○農地物件の情報整理と関係機関との連絡調整 農地バンク等により対象農地の情報収集を行うと共に、関係機関の利用調整会議を開催し、農地情報及び進捗状況について共有化を図る。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 農地利用集積円滑化団体の承認 農地利用調整活動支援事業の推進と実績に伴う交付事務 利用集積交付金(10aあたり2万円) 利用調整会議の開催 	実施主体 みなみ信州農協 交付対象農地 交付額 利用調整会議の開催	1ha 0円 2回
23年度実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 農地利用調整活動支援事業の推進と実績に伴う交付事務 利用集積交付金(10aあたり2万円) 利用調整会議の開催 農地バンクの有効利用 	交付対象農地 交付額 利用調整会議の開催 農地バンク活用実現者	4ha 800千円 4回 8人

3 事業コスト

事業費	(千円)				特定財源内訳、補足事項
	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	(国)農地利用集積円滑化促進事業	
特定財源	国庫支出金				
	県支出金	61	0	800	
	起債				
	その他				
一般財源	計(A)	61	0	800	
	正規職員所要時間		600		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		2,146		
	トータルコスト A+B		2,146		

4 事業に対する市民や議会の意見

農業の担い手不足、耕作放棄地の増加は、農業を取り巻く最重要課題であり、市政懇談会、議会等で対策を講ずるべきとの意見を頂いている。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等の出荷額を高める活動をする。	施策の成果指標又はムツス指標	既存農業者の産出額(農業):億円
この事務事業は施策の目的達成にどのよう貢献しましたか	4年間の振り返り	平成22年度から実施 H22.7農地利用円滑化団体の指定(みなみ信州農協)により、農地集積の為の強力な推進手法が確立。農地利用調整会議を2回開催 関連施策として農地バンクのPR実施 農地利用マスタープランの検討開始。現在も関連施策と合わせ事務事業としての位置付け検討中		
	後期に向けた課題	関連施策農地バンクの有効活用と土地利用に対する利用者の意欲の喚起、農地利用集積円滑化団体(みなみ信州農協)との連携 農地集積活動への誘導 土地利用調整会議の積極的利用及び参加委員との連携の強化 農地利用調整会議の活用 農地バンクの活用 農地利用マスタープランの策定実践 現在も関連施策と合わせ事務事業としての位置付け検討中		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	平成22年度から実施 農地バンクの農協広報媒体活用 インターネット活用 広報飯田PR 現在も関連施策と合わせ事務事業としての位置付け検討中		
	後期に向けた課題	関連施策農地バンクの有効活用と土地利用に対する利用者の意欲の喚起、農地利用集積円滑化団体(みなみ信州農協)との連携 農地集積活動への誘導 土地利用調整会議の積極的利用及び参加委員との連携の強化		
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	平成22年度から実施 現在も関連施策と合わせ事務事業としての位置付け検討中		
	後期に向けた課題	現在も関連施策と合わせ事務事業としての位置付け検討中		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	農地利用集積円滑化団体(みなみ信州農協)との連携 農地集積活動への誘導		
	後期に向けた課題	費用対効果の指標を早急に作製する必要有り		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	平成22年度から実施 現在も関連施策と合わせ事務事業としての位置付け検討中		
	後期に向けた課題	農地利用調整会議が充足し、役割を明確化したことから、実際に活動出来るよう常に情報発信をしていく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	事務事業進行計画で計画したが、関連事業とあわせ、計画のすりあわせが必要になってきた。		
	後期に向けた課題	今後、関連事業 農地バンクの充実、調整会議の定期実施。農地バンクから現場へ着実な情報発信とまとめも含め、事務事業進行管理表を整理していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--